

第14次復興支援ボランティア

派遣期間	2012年11月23日(金)～25日(日)				
派遣場所	宮城県七ヶ浜町	派遣人数	9名	長電全体	31名

《参加者氏名》

	氏名	所属組織名		氏名	所属組織名
1	佐治木広道	農団労ながの農協労組	6	小宮山剛史	農団労オートパル信州
2	井澤 嘉宏		7	清水 武	うえだ労組
3	佐藤恵利子		8	塚田 豊	農団労信州うえだ労組
4	吉沢あゆみ		9	細田 信一	電力総連関西電力労組
5	根岸 純一				

《3日間のスケジュール》

11月23日(金) 曇り

13:00 花淵地区田圃のガレキ撤去作業
15:00 VCに戻り道具の片付け

11月24日(土) 曇りのち晴れ

10:00 花淵地区田圃のガレキ撤去作業
15:00 VCに戻り道具の片付け
町内の視察

11月25日(日) 晴れ時々曇り

10:00 新清水沢地区田圃のガレキ撤去作業
12:00 VCに戻り帰路につく



《参加者の思い・感想》

3回目のボランティアで感じたこと

[農団労ながの農協労組・佐治木 広道]

2012年7月に2回目のボランティアに参加した際、水田は1回目に参加した時とは見違えるように瓦礫が撤去されておりました。この時、町の復興は近いと感じました。

今回はあれから半年。夏より復興が進み、ボランティアの仕事も水田の細かい瓦礫の撤去程度だろうと思っておりました。七ヶ浜に入り、以前作業した水田はきれいに整備され、除塩が済めば再び田植えが出来るように見えるほど、整備されておりました。

しかし、今回の参加で、それは間違えだとわかりました。最初の住宅地での撤去作業では、土を掘り起こせばまだまだ瓦、ガラスなど、さまざまなものが出てきます。夏の水田での作業よりもはるかに瓦礫が多いと感じました。さらに3日目、作業前の打合せで「今日行う場所は手つかずの水田です」との説明がありました。この時まで手つかずの水田があるのかと思いましたが。現地に着いたら、昨日バスの車窓から



見えていた場所で、道路より50センチも高くなっていたので、住宅の跡地だと思っていた所でした。本来の土まで1メートルぐらい掘る必要があると分かった時、一部だけ見て復興していると感じた事に反省しました。

予想通り、手つかずの水田は、1人では運べないような大きな石や瓦礫が次から次と出てきます。これがもとの風景となるまでは、まだまだ先は長いでしょう。七ヶ浜は、復興が一番進んでいる所ですが、それでもこのような場所がまだ多くあるそうです。

地元の方は、「震災を忘れ去られてしまうのが一番怖い」と言っておりました。報道も少なくなり、長野にいるとつい昔の事と忘れてしまいがちですが、現地では震災は終わっていません。ぜひ多くの人に自分の目や耳で現地の様子を感じてもらいたいと思いました。



そんな大変な中、地元の方々がボランティアの為に名物のカキとボッケ汁をふるまってくれました。あの味は一生忘れません。現地は寒かったですが、心も体もあたたかくなりました。

◀ ながの農協労組の5名(左から吉沢・佐藤・根岸・佐治木・井澤さん)

[農団労ながの農協労組・佐藤 恵利子]

三日間、田んぼや畑のガレキ撤去作業をさせていただきました。

鍬で土を掘り起こし、ガレキを拾い集めて土のう袋に入れる作業を繰り返し行いました。ほとんど手が付けられていない田んぼでの作業は2、3人ではないと運べない大きな石や鉄パイプ、肥料、窓のサッシ等、様々な物がでてきて、驚きと共に津波の脅威を痛感しました。

掘れば掘るほどガレキはでてきて正直きりが無いと思うほどでした。しかし一緒に参加したボランティアの方が「一度で田畑は綺麗にならないけれど、この作業は次のボランティアの方へと受け継がれ、少しずつ元の田畑へなっていく。」とおっしゃっているのを聞いて、自分の力は微力にすぎないけれど、みんなで力を合わせれば大きな進歩になるのだと感じました。そして、「まだまだ東北は皆さんの力が必要！」であるとの活動で強く思ったことです。貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

[農団労ながの農協労組・吉沢 あゆみ]

3日間を通しての作業時間は8時間程度で、主に田んぼや畑の瓦礫撤去を行いました。

今回の派遣先である七ヶ浜町は、町の面積の約4割が津波により浸水し、田んぼの98%が被害を受けたという場所で、海が見えないぐらい建っていた住宅が、3.11による津波ですべて流されてしまったそうです。今では海岸沿いがすべて見渡せるほど、何も無い状態になっていました。

地元の方々のお話で強く印象に残ったのが、忘れられるのが一番悲しい、という言葉でした。震災

から一年半が経った今、徐々に被災地に関する報道も少なくなり、既に復興したと思っている人も少なくないようです。被害を受けた方達の中には、助けて欲しいと声を上げられない方が今でも大勢いらっしゃるそうです。実際にこの目で現地の状況を見、地元の方々のお話を聞いて、その方たちの声を受け止められる場所を、この先も無くしてはならないと強く思いました。

本当に僅かな力ではありますが、今後も復興支援のお手伝いをさせて頂きたいと思ひますし、出来れば、まだ行った事のない方たちにもぜひ足を運んでもらえればと思ひます。

[農団労ながの農協労組・根岸 純一]

今回、私たちが行なったボランティア活動は畑や田んぼのガレキの撤去でした、これまでの活動ですでに大きなものは取り払われていたので、ガラスの破片や石など小さいものを拾う作業が中心でした。一見すると片付いているように見えるところでも、少し掘ればどんどんとガレキは出てきて、完全に復興するまではまだまだ長い時間がかかりそうです。

二日目の作業のとき、お昼休みに地元の方々が、特産物の魚だという「ぼっけえ」を使ったみそ汁と牡蠣、おにぎりをふるまって下さいました。それがどれも非常に美味しく、感謝するとともに、こんなに素晴らしいものがとれる七ヶ浜、一日でも早く復興させないといけな、と強く感じました。

たった3日間の活動、私1人の力なんてほんのわずかなものでした。それでも少しでも復興に協力できた事はうれしく思うし、一緒にボランティアに参加した仲間と、現地の人たちとの絆も多少なりとも感じる事ができ、本当に参加して良かったと思えるものでした。



▲ ぼっけ(ケムシカジカ)

[農団労信州うえだ労組・塚田 豊]

七ヶ浜町での作業内容は、農地の復旧のためのごみや瓦礫の撤去でしたが、鋤や鍬といった農具類が少なく、ほとんど「手作業」で行ないました。灰聞するところ、七ヶ浜は比較的復旧が進んでいて、他の復旧が遅れている地域へ機械や道具を送ったとのことでした。そのため、員数の割には作業効率が挙げられなかったように思います。

24日の昼には、町民の方々が炊き出しをして、海苔むすびと名物のポッケと云う魚の味噌汁を振舞ってもらいました。約2万人の人口の内96名が亡くなり、現在も1000人以上が仮設住宅での生活を余儀なくされている状況にもかかわらず、私たちボランティアを暖かい食事でもてなす、その心遣いに感激し恐縮もした次第です。

震災から1年8ヶ月が経過し、七ヶ浜町は農地の修復は大分進んだそうですが、水利の便に恵まれない地域で農地の塩害除去にはまだ何年も掛かるそうです。加えて地震により90cmも地盤沈下しているため、沿岸部の田畑は余計きびしい状況のようです。

東日本大震災で被災した地域の農業は、地域の基幹産業に位置づけられている所も少なくありません。農業の復旧復興が地域の再生に繋がると確信を持ちました。しかし、それには膨大な年月と人手とお金が掛かることだと、今回ボランティアに参加して改めて感じました。

これからも、募金や義捐金には出来るだけ協力したいと思ひます。また機会があればボランティア

にも参加したいと思います。

最後に、今回の機会を与えてくれた連合長野と、3日間行動を共にして頂いた長電スタッフの皆さんに感謝します。

被災地の早期の復旧復興を祈念し、合わせて、犠牲となられた多くの皆さんのご冥福を衷心よりお祈りいたします。 合掌

[電力総連関電アメニックス労組・細田 信一]

震災から1年8ヶ月余り。ボランティア意識の薄れなどを思いこのツアーに参加しました。バスにて仙台の街に入っていく中、大分景色が変わりどこを見ても少しずつ元通りに近づいている事を感じつつ、うれしい気持ち、むなしさ憤りなどを心の中に押し込んで活動地へ向かいました。

世間で言う“瓦礫”の中を通りぬけ津波にあった田んぼを横目に見ながら、正直“瓦礫”という言い方は自分なりに納得いかない。なぜなら一人一人汚水流し働いた結晶。それを“瓦礫”で済ますにはやはり納得いかないが、やはりこの言い方しか見つからない。

ボランティアセンターに着き現場へ向かう直後隣のサッカースタジアムで手を振る少年たちが居ました。なんとなく“ありがとう！！七ヶ浜へボランティアに来てくれて”と聞こえて来そうな感じでしたが、その反応もできず心残りです。

2日目のお昼でボランティアセンターに戻ってビックリ。“ボッケ汁”・焼きガキ・おにぎりの配布。どれもおいしく頂きました。作ってくれた方々、ボッケに感謝感謝。

これも余裕があってからこそ。これだけ余裕ができたのかと思い、おいしく頂きました。しかしおいしかった！もう一度食べたい。そうだ！！食べに行こう。あのうつくしい七ヶ浜の海、おいしい食べ物、まだ見ぬ嫁さん子供3～4人連れて。海水浴しながら…必ず行くゾー！！七ヶ浜 その時はヨロシク。

で、活動は“瓦礫”拾い。とつとつと自分にできるすべてを出し、1日目2時間、2日目4時間、最終日2時間。わずかであるがプラスαになれた気がしました。

同封の写真ですが、ボランティアセンターにてお花を飾っていたギャル！！ゆかちゃんです。なんでしょう、このやわらかな雰囲気。さつぱつとしたセンター内をやわらかくしている気がして一枚パシャリ。

3日間ありがとうございました。



あ と が

東日本大震災から1年9ヶ月。

今年の最後となる11月23日出発「東日本大震災復興支援ボランティア」で、連合長野の復興支援ボランティア派遣は第14次になりました。

これまでの参加者数は、16構成組織・3地協から239名に達しました。

ご参加いただいた皆さんと参加者を派遣していただいた構成組織・地協・単組の取り組みに改めて感謝致します。

この間のボランティア派遣場所は、宮城県内の石巻市・七ヶ浜町・南三陸町・仙台市若林区です。10月5日出発で南三陸町、11月9日出発で仙台市若林区へ入りましたが、今も“3.11から時間が止まったままの姿”があることに愕然としました。

国民運動・環境委員会では、2013年前半の「復興支援ボランティア」派遣を3月と5月に計画し、3月は9日(土)～11日(月)に実施致します。

また、被災地への直接的な支援ボランティアの他に、石巻市・七ヶ浜町・南三陸町の海産物や栄村の特産品を年数回斡旋販売する間接的な支援も2013年1月から展開することになっています。

“3.11を忘れない”息の長い無理のない復興支援を継続していくために、引き続き、構成組織並びに地協の皆さんのご協力をお願い致します。

最後に、「東日本大震災復興支援ボランティアツアー」を継続している長野電鉄(株)長電観光のご努力に敬意を表するとともに、長電観光の三木部長と毎回ご苦労いただいている添乗員の皆さんに感謝と御礼を申し上げます。

2012年12月11日

連合長野国民運動・環境委員会
事務局担当 成 沢 勇 次

《ホームページURL》

長 電 観 光	http://www.nagaden-net.co.jp/ryokou/volunteer.html
七ヶ浜町V C	http://msv3151.c-bosai.jp/index.php?gid=11044
南三陸町V C	http://minamisanrikuvc.com/
R e R o o t s	http://reroots.nomaki.jp/